

(〇〇空港)

事業名	〇〇空港ターミナルビル保安検査場感染症対策事業
事業者	事業者名：〇〇空港ターミナル(株) 住 所：〇〇市△△ 1-1 担当者名：経営企画部 企画課 □□ 連絡先（電話）：0000-00-0000 連絡先（e-mail）：adress@marumaruaairport.jp
事業目的	〇〇空港の旅客ターミナルビルにおいては、感染症リスクの最小化を図ることを目的に、国際線保安検査場の改修及びパーテーション設置と、国内線を含めた全ての保安検査場において検査トレーの殺菌装置の導入を実施する。
事業概要	・ 国際線保安検査場改修、パーテーション設置 H2600×20m ・ 保安検査トレー殺菌装置設置（国内線・国際線） 国内 3 台、国際 1 台、計 4 台
事業の必要性・緊急性	・ 〇〇空港旅客ターミナルビル国際線の保安検査場は、近年の保安検査高度化に伴う新しい機器の導入や機器の大型化により、スペースに余裕がなく、ソーシャルディスタンス確保が困難なため対策を講じる必要がある。 ・ 保安検査トレーは旅客及び検査スタッフが直接接触することから、感染リスクが懸念されており、スタッフによるアルコールでの拭き取りを実施している。 ・ スタッフによる拭き取りは、検査効率の低下を招き、検査待ち時間の増加や出発遅延にも繋がる恐れがあることから改善が必要。また、エアラインからも早急な改善を要望されている。
事業の効果	・ 国際線保安検査場においてソーシャルディスタンスの確保が可能となる。 （国際線利用者年間 20 万人に影響） ・ 保安検査トレーの殺菌装置を導入により、感染リスクの最小化と検査効率の改善が図られる。 （国内線利用者年間 200 万人、国際線利用者年間 20 万人に影響）
事業費	総事業費：40,000 千円 補助金額：20,000 千円
事業期間	令和 3 年 4 月 1 日～令和 3 年 9 月 30 日
公共性 公益性	・ 整備エリアは国内線、国際線の各保安検査場 ・ 国内線、国際線それぞれ全ての出発旅客が使用するエリア
その他事項	・ 国際線、国内線いずれの保安検査場においても、検温のためのサーモカメラ及び手指の消毒のためのアルコール消毒液を設置済み。 ・ チェックインカウンター、ゲートカウンターでは飛沫防止版を設置済み。 ・ ゲートラウンジ等ではソーシャルディスタンス確保のための床面や椅子への表示を実施。

※複数枚でも可

別紙2

	補助対象経費の区分	補助対象事業の目的・内容	補助対象設備	補助対象事業の着手及び完了予定日	費用総額		補助対象経費	補助金額	備考
					負担者	負担額			
1	(1) 待合スペース・保安検査場等の密集防止	国際線保安検査場改修によるソーシャルディスタンス確保	保安検査場改修工事(パーテーション設置を含む)	R3.4 着手予定 R3.9末 完了予定	10,000,000		10,000,000	5,000,000	
					国	5,000,000			
					10,000,000				
					申請者	5,000,000			
2	(4) 検温、殺菌・抗菌関連機器等	検査効率の向上と感染リスクの低減	保安検査トレイ殺菌装置設置	R3.5 着手予定 R3.8末 完了予定	30,000,000		30,000,000	15,000,000	
					国	15,000,000			
					30,000,000				
					申請者	15,000,000			
3									
計						40,000,000	40,000,000	20,000,000	

注) 補助対象経費、補助金額は、消費税及び地方消費税額等仕入控除税額を原則、減額して記載して下さい。

【事業の概要と目的】

- 〇〇空港の旅客ターミナルビルにおいては、感染症リスクの最小化を目的に、国際線保安検査場の改修及びパーテーション設置と、国内線を含めた全ての保安検査場において検査トレーの殺菌装置の導入を実施する。

【事業概要】

総事業費： 40,000千円

事業期間： 令和3年4月1日～令和3年9月30日

【令和2年度補助要望】

補助金額： 20,000千円

補助内容： 国際線保安検査場改修、パーテーション設置
保安検査トレー殺菌装置設置(国内線・国際線)

【事業工程】

令和3年3月 事前調査、仕様決定、発注

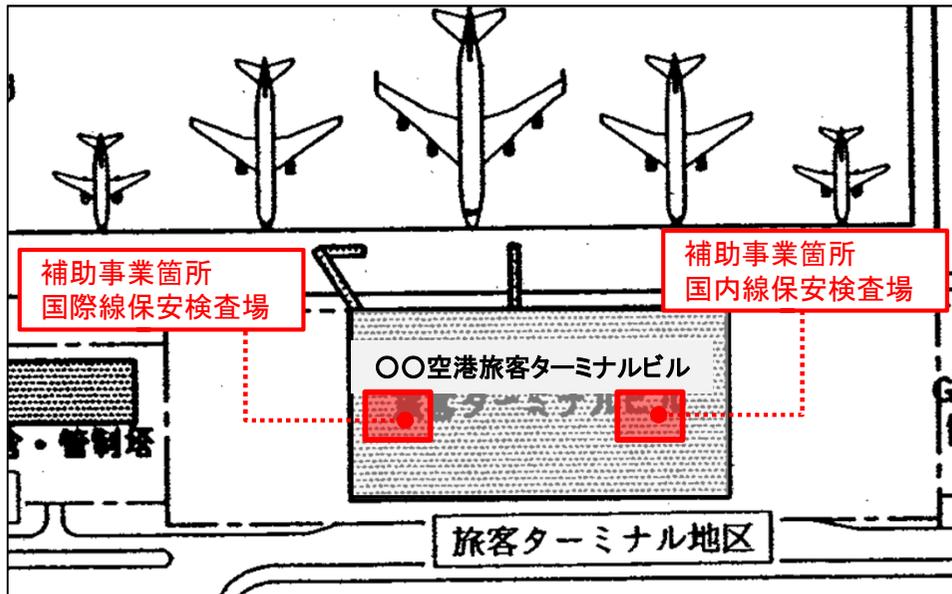
令和3年4月～8月 設計・製作

令和3年9月 設置

※工程表でも可

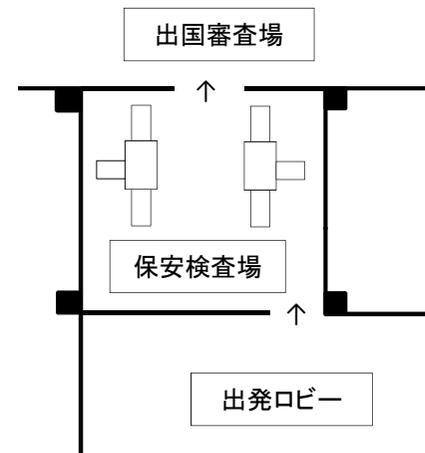
【整備計画】

【位置図】



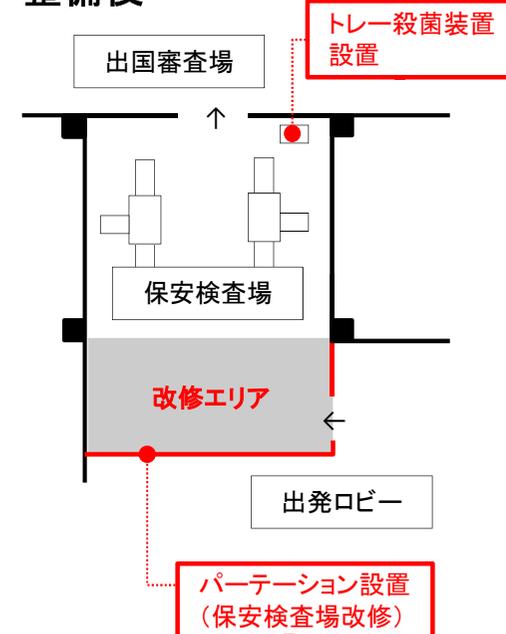
※建物配置図、平面図、航空写真等の使用可

現況



※計画図面等の貼付けでも可

整備後

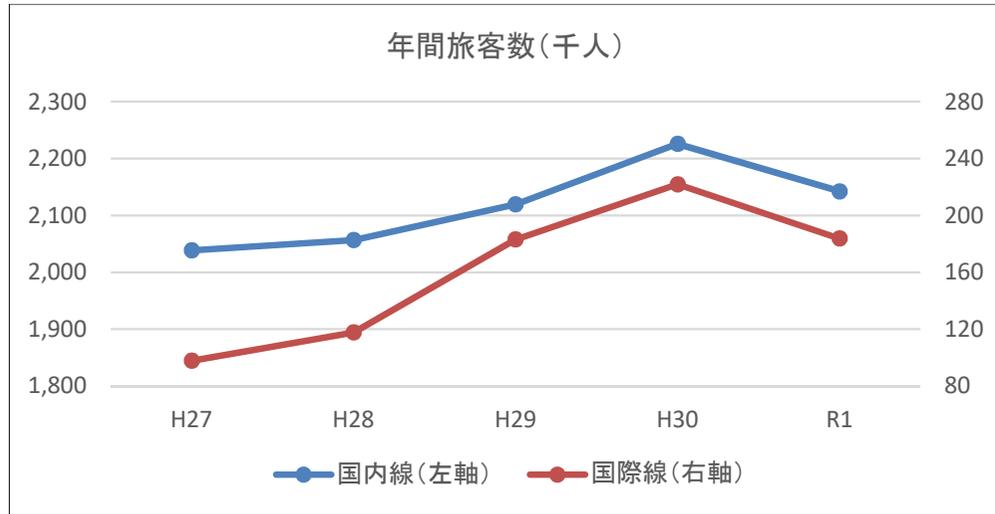


〇〇空港ターミナルビル保安検査場感染症対策事業

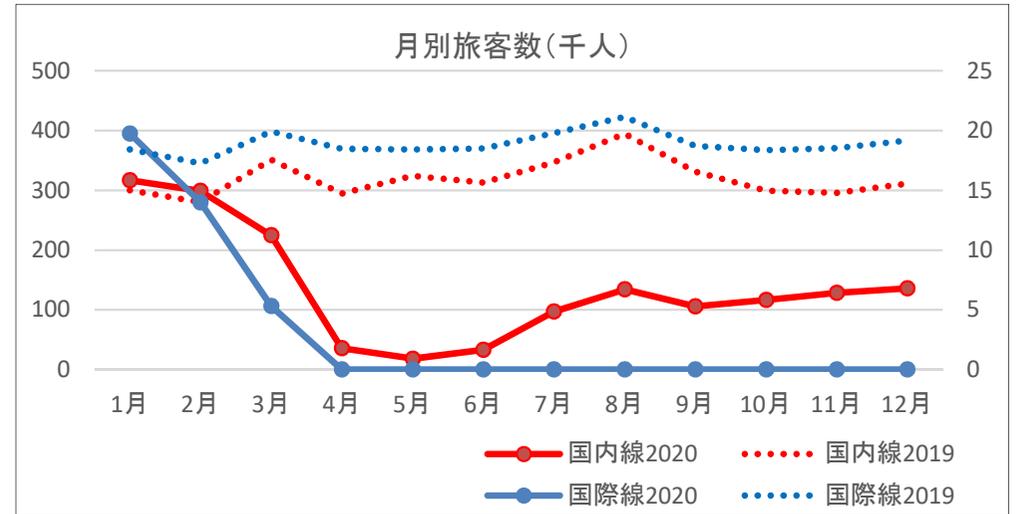
【利用状況】

- コロナ以前の旅客数は国内線、国際線ともに増加傾向。
- 特に国際線は、出発便が重なった場合に混雑が発生していた。現在は全便運休中。

【年間旅客数の推移】



【月別旅客数者数の推移】



【〇〇空港就航路線の運休・減便の状況】 R3.?月時点

【国内線】

東京（羽田）：3便/日 → 2便/日
 大阪（伊丹）：2便/日 → 2便/日
 札幌（新千歳）：1便/日 → 運休

【国際線】 いずれも運休中

ソウル（仁川）：〇〇航空 週7往復 14便
 台北（桃園）：△△航空 週4往復 8便
 香港：◇◇航空 週2往復 2便
 上海：□□航空 週1往復 2便

〇〇空港ターミナルビル保安検査場感染症対策事業

【感染症リスクに関する施設面の課題と解決策、事業実施による効果等】

- 国際線は保安検査場の改修によりソーシャルディスタンス(少なくとも1m)の確保が可能に
- 国内線・国際線いずれも保安検査トレーの殺菌装置を導入することにより、感染リスクを低減し検査効率を改善

【感染症リスクに関する施設面の課題】

- 〇〇空港旅客ターミナルビル国際線の保安検査場は、近年の保安検査高度化に伴う新しい機器の導入や機器の大型化により、スペースに余裕がなく、ソーシャルディスタンス確保が困難なため対策を講じる必要がある。
- 保安検査トレーは旅客及び検査スタッフが直接接触れることから、感染リスクが懸念されており、スタッフによるアルコールでの拭き取りを実施している。
- スタッフによる拭き取りは、検査効率の低下を招き、検査待ち時間の増加や出発遅延にも繋がる恐れがあることから改善が必要。また、エアラインからも早急な改善を要望されている。

【上記課題についての解決策】

- 国際線保安検査場改修、パーテーション設置H2600×20m
- また、感染リスクが懸念される保安検査トレーについては、殺菌装置を導入することで、現状検査スタッフが行っているアルコールによる拭き取りを省略し、作業負担を低減することで、検査効率低下の改善を図る。
- なお、国際線、国内線いずれの保安検査場においても、検温のためのサーモカメラ及び手指の消毒のためのアルコール消毒液を設置済み。

【事業実施による効果と効率性】

- 国際線保安検査場においてソーシャルディスタンスの確保が可能となる。(国際線利用者年間20万人に影響)
- 保安検査トレーの殺菌装置を導入により、感染リスクの最小化と検査効率の改善が図られる。(国内線利用者年間200万人、国際線利用者年間20万人に影響)

※必要な情報を記載し、分かりやすく記載すること。